

民間セクター、財団（フィランソロピー）

および教育のためのグローバルパートナーシップ（GPE）

大きな志とユニークな機会

民間セクターおよびフィランソロピーは、教育システム全体の改革を促す教育のためのグローバル・パートナーシップ（GPE）の取り組みにおいて、極めて重要なパートナーです。GPEが2026年から2030年にかけての次期戦略サイクル（GPE 2030）に移行する今、教育はまさに決定的な瞬間を迎えています。私たちは、紛争、気候変動、不平等、そして急速な技術革新といった地球規模の課題に対処しつつ、次世代を担う若者たちが将来の生計を立てるために必要な幅広いスキルを習得できるよう備えなければなりません。GPE 2030の完全な実施には、まず50億ドルの増資が必要です。この中核となる投資は、開発銀行、民間セクター、そしてフィランソロピーのパートナーからの追加的な100億ドルの共同出資（Cofinance）を引き出す呼び触媒（キャタリスト）となります。

国内および国際的な資源と組み合わせることで、この投資は2億400万人の子どもたちの就学を支援することにつながります。教育の向上によって得られる利益は、長期的にはパートナー国の経済を最大で8,400億ドル（GDP比で0.5%）押し上げる可能性を秘めており、GPEは開発分野において最も投資効率の高い選択肢の一つとなっています。

GPEの第5次増資キャンペーンは、より賢明で、より整合性のとれた投資への需要が高まる中で展開されています。すなわち、各国の国内システムに根ざし、財政の現実に即した、そして持続的な変革に向けて教育における国の主体性を強化するように設計された資金供給です。民間セクターおよびフィランソロピーのパートナーは、この取り組みにおいて、独自の、かつ極めて重要な役割を担っています。

GPEのコミットメント：システム全体の改革を推進するパートナーシップ

GPEは、マルチステークホルダーによるパートナーシップの強みと、グローバルな教育基金としての資金力を兼ね備えています。各国の優先課題に沿って資金供給を調整し、教育システム全体の改革を推進します。GPEは、公的資金を中心に据えつつ、各国の国内システムを強化します。また、多様な資金、譲許的資金（低利・長期の資金）、フィランソロピー、そして民間資本を活用してきた実績に基づき、各国が「短期的で断片的な対外援助」から脱却し、教育システムを強化し持続的なインパクトをもたらす「長期的で持続可能な投資」へと移行できるよう支援します。さらにGPEは、成果連動型の資金調達や保障など、新たな資金調達を呼び込みを図っています。

これにより、さらなるインパクトの拡大、および民間セクターやフィランソロピーからの新たな投資機会の創出を可能にします。これらの取り組みは、各国の教育事情や財政の現実に即して最適化されています。システム全体への投資促進やリスクの低減、あるいは投資を継続させることで、着実にインパクトをもたらします。20年以上にわたり、GPEはこのモデルを調整し、インパクトを拡大させるために、より高い費用対効果（バリュー・フォー・マネー）と効率性を実現してきました。2026年から2030年にかけて、GPEは50億ドルの資金を調達し、約7億5,000万人の子どもたちの教育を改善していきます。



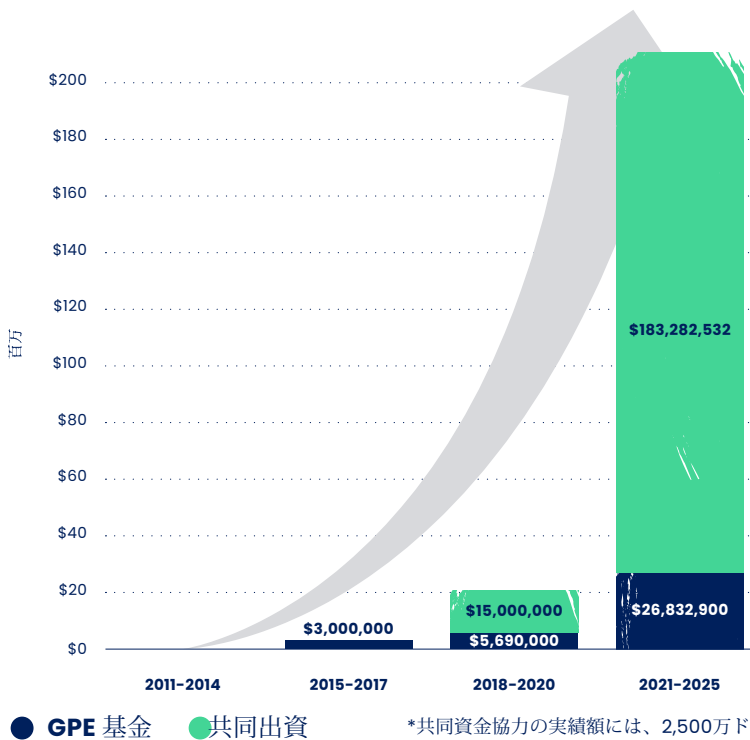
「世界中で教育提供の根幹が危機に瀕している今こそ、フィランソロピーを含む私たちが一歩踏み出すべき時です。なぜ、民間資金の提供者にとってGPEはこれほどまでに魅力的なのでしょう。私は、GPEとの連携は単なる資金協力（共同融資）をはるかに超える価値をもたらすと信じています。それは、世界規模でのネットワーク（グローバル・リーチ）を提供し、すべての子どもたちが障壁なく学べる、より公正で公平な世界の実現に向けて、あらゆる関係者やパートナーに説明責任を果たさせるものです。端的に言えば、もし今日GPEが存在しなかったとしても、私たちが直面している教育の課題に対処するために、今すぐGPEを創設する必要がある、ということです。」

Simon Sommer
ヤコブス財団 共同最高経営責任者（Co-CEO）

GPEは、民間セクターやフィランソロピーが集団的行動を通じて投資効果を増幅させるための、強力なプラットフォームを提供しています。民間セクターや財団は、各国政府、市民社会、ドナー国、そして多国間機関と並んで、GPEの理事会に代表として加わっています。国レベルでは「パートナーシップ・コンパクト」を通じて、GPEは政府と多様なステークホルダーを結束させ、計画策定から実施、成果の確認に至る投資サイクルの全過程において、優先事項の特定と資金供給の調整を行います。このアプローチにより、民間セクターやフィランソロピーは、各国の改革に向けた取り組みに直接関与し、政府の優先課題と足並みを揃え、測定可能かつ持続可能な成果を定義することが可能になります。GPEのモデルは、あらゆるパートナーシップの中核に「公平性」と「カントリー・リーダーシップ（国の主体性）」が据えられることを保証します。

過去10年間で、GPEは民間セクターおよびフィランソロピーとの間で40以上のパートナーシップを構築し、2億3,000万ドルを超える新規資金と現物貢献を動員してきました。「GPEマッチ」は、民間セクターやフィランソロピーからの教育投資を促進するための「1ドル対1ドル」のマッチング・メカニズムです。拠出された1ドルに対し同額がマッチング（補填）され、それがさらに政府、開発銀行、その他のドナーからの数倍もの資金供給を促進（アンロック）します。これにより、個別の投資が大規模でシステム全体を変革する行動へと変わります。助成金1ドルあたりの価値に対する要求が強まっている状況下においても、GPE理事会が、他の資金提供者については比率を引き上げた一方で、民間セクターと財団に対しては「1対1」の比率を維持することを決定したのは、まさにこうした理由によるものです。

民間セクターおよび財団からのこれまでの貢献実績



フィランソロピーによるマラウイ政府の基礎学力向上に向けた取り組みへの支援

マラウイでは、10歳までに文字を読める子どもはわずか13%に過ぎません。この危機的状況に対処するため、政府は基礎学力の向上を目指し、「イノベーションとテクノロジーを通じた教育基盤の構築 (BEFIT)」を開始しました。Imagine Worldwideが実施するこのプログラムは、太陽光発電式のタブレットを活用し、国内の学習指導要領に沿ったオフライン対応の適応型学習（アダプティブ・ラーニング）を500校に提供しており、これまでに27万7,000人の児童に届けられています。GPEは、このプログラムを全国規模に拡大するという政府の志を支援する上で、触媒（カタリスト）としての役割を果たしました。具体的には、3つの財団からの1,520万ドルの資金拠出に対して、同額の1,520万ドルの「GPEマルチプレイヤー」助成金を提供（アンロック）しました。この革新的なアプローチにより、基礎教育が促進され、学習格差が是正されるとともに、学校のデジタル対応能力が強化されています。



マラウイ中部ムフィンビ小学校にて、タブレット学習プログラムを使った算数の授業中、指を折って数えるリュートさん。これは、マラウイ教育省が主導する「BEFIT（イノベーションとテクノロジーを通じた教育基盤の構築）」の一環であり、「GPEマルチプレイヤー」助成金と民間セクターからの共同資金協力を活用して、全国規模への拡大が進められています。（写真提供：Ofred Studio）

インパクトを最大化し、投資を形にする具体的な機会

GPEマッチを活用した以下の支援形態は、民間セクターやフィランソロピーの皆様にとって、専門知識を活かし、リソースを投入するための具体的な参入機会（エントリーポイント）となります。これらは「GPE基金」を通じた、あるいは同基金と並行した形での支援を可能にし、最も大きなインパクトをもたらす、かつ最も取り残された人々に支援を届けることができる枠組みです。

GPE マルチプライヤー:

▶ GPEマルチプライヤーを通じた資金供給により、民間セクターおよびフィランソロピーは、自らの投資1ドルに対してさらに1ドルを動員し、GPEパートナー国において大規模なインパクトを達成することが可能になります。各国の教育における優先課題に沿った教育プログラムへのこうした共同投資は、大規模な教育変革をもたらす、持続可能で自立したシステムの構築に寄与します。

GPEマッチは、以下の取り組みへの拠出額を倍増:

▶ **女子教育アクセラレーター:** 資金提供者は、女子教育が主要な課題として特定されている国や地域において、ジェンダー平等を支援するためにリソースを投入するGPEの資金調達メカニズムに対し、拠出金の用途を指定することが可能です。

▶ **技術協力イニシアティブ:** GPEは、気候変動に対して強靱な教育システム（気候変動に耐性のある教育システム）、学校給食、および教育のデジタルトランスフォーメーションを資金提供者が支援できるよう、専用の資金調達経路を用意しています。これらのイニシアティブは、教育省の能力（キャパシティ）を強化し、教育システムの質、公平性、そして回復力（レジリエンス）を高めるように設計されています。

▶ **GPE KIXとエデュケーション・アウト・ラウド [Education Out Loud]:** 地域ごとに設定された重点テーマに基づく「アクション・リサーチ（実践的研究）」への助成や、アドボカシー（政策提言）、説明責任、および透明性の向上を推進する市民社会組織や連盟への助成を通じた、ターゲットを絞った支援機会を提供します。

ジュネーブに新たに設立された**GPE財団**は、GPEの使命と目標を支援する上で、民間セクター、フィランソロピー、およびその他の非政府パートナーとの関わりを深める新たなマイルストーンとなります。本財団は、より幅広い資金提供者との連携を拡大・強化・多様化させ、革新的なパートナーシップ、多様なリソースと能力、そして持続可能なファイナンスを推進します。また、本財団は、民間セクター、フィランソロピー、および超富裕層が教育に投資し、GPEとのパートナーシップのもとで新しい革新的な金融アプローチを試行するための、新たな資金投入の道を提供します。

ウクライナ危機下における教育への民間セクター支援

ウクライナでの戦争により、400万人の子どもの学習が妨げられています。GPEは、紛争の影響を受けた子どもたちに遠隔学習と心理社会的支援を提供するため、ウクライナ教育省と主要な民間企業とのパートナーシップを促進しました。

Google、Microsoft、およびユネスコは、1万6,000台のデジタル端末の提供（現物貢献）を含む総額2,550万ドルの支援を行い、これによって同額の2,550万ドルの「GPEマルチプライヤー」助成金が引き出されました。このパートナーシップを通じて、6万1,000人以上の教育者が心理社会的支援の研修を、8,000人の教員がデジタルおよびブレンディッド・ラーニングの手法の研修を、そして2万人の教員が学習損失の回復に向けた研修を受けました。さらに、39か所のデジタル学習センターが設置され、避難生活を送る子どもたちが学習を継続できる環境が整えられました。



QRコードをスキャンして「Case for Investment」をご覧ください。

お問い合わせ先

Stijn De Lameillieure

民間セクター・フィランソロピー連携部門責任者

sdelameillieure@globalpartnership.org

information@globalpartnership.org

GPE Transforming Education

MULTIPLY >>>>
POSSIBILITY
FUND EDUCATION

✕ GPforEducation

📷 GPforEducation

🌐 GlobalPartnership

globalpartnership.org